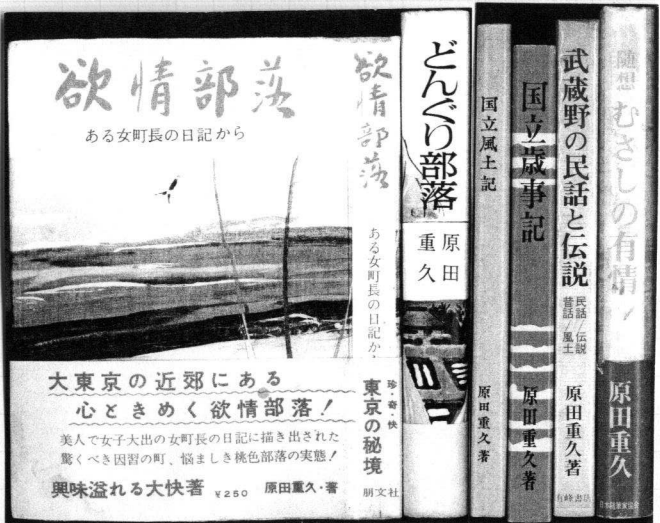


原田重久 はらだ しげひさ 小説家、俳人。明治三十四年一月十六日東京府谷保村生れ（一九〇一）。俳號しげひさ、逃水亭。立川経済専門學校事務長、立川短期大學庶務課長を務め、昭和二十四年より日本放送協会専属作家として約二十年放送臺本執筆に従事。傍ら郷土くみたち國より民俗を研究。主な俳誌『春燈』に據り作句。



（昭和五十七年十月十五日日本随筆家協会「現

著書『子春鐵舟』（昭和十七年八月十五日パンフレット文藝社）、『櫻の糸圖』（合著・陣出達朗―歴史文學研究會編、昭和十七年九月十五日パンフレット文藝社）、『歎きの歌姫』（昭和二十二年十月二十一日行人社）、『欲情部落―ある女町長の日記から』（昭和二十二年四月二十五日朋文社）、『どんぐり部落』（昭和二十二年一月一日逃水亭書屋）、『國の歳事記』（昭和四十四年十月一日逃水亭書屋）、『多摩・ふるまこの唄（労作唄と庶民のくらし）』（昭和四十六年六月一日武蔵書房「郷土叢書」）、『武蔵野の民話と伝説』（昭和四十九年七月二十一日有峰書房）、『武蔵野のわらわ唄と方言―付こども歳時記』（昭和五十一年十月二十日武蔵野郷土史刊行会）、『雑草の記（ある郷土作家の半生）』（昭和五十六年二月一日逃水亭書屋）、『随想むさしの有情』



代隨筆選書「」等。